

国立国語研究所学術情報リポジトリ

むつ市方言の音韻

著者	大槻 知世
雑誌名	青森県むつ方言調査報告書 : 日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成 : 方言の記録と継承による地域文化の再構築
ページ	9-18
発行年	2020-03-20
URL	http://doi.org/10.15084/00002996

むつ市方言の音韻

大槻 知世¹

1 はじめに

2018年8月に青森県むつ市寿町にて、5つの班に分かれて各班話者1~2名と対面調査を行なった。本稿は基礎語彙調査を行なった4つの班のデータに基づいて、むつ市方言の音韻についてまとめる。必要に応じて、語彙項目に付随して得られた例文からも語例を抽出して挙げる。

2 母音

2.1 短母音

短母音には /a/, /i/, /u/, /e/, /o/ の5つの対立があり、これらを短母音音素として認める。それぞれ、共通語のア、イ、ウ、エ、オに対応する。

実際の音価について、/i/ は中舌の [i] で発音されることが多い。/i/ は基本母音の [i] よりやや広めで、[i] や [ɪ] のようにも発音される。/e/ は基本母音の [e] より狭い [ɛ] で実現する。このためか、/i/ と /e/ の区別が曖昧な、[ibɛ]「海老」のような例が、語彙レベルで散発的にみられる。

/u/ は基本母音の [u] より円唇性が弱く、中舌寄りであり、[ʊ] や [ɯ]、[ʘ] のように発音される。

中舌寄りの狭母音である /i/ と /u/ は、歯茎音の直後では区別が曖昧になる。

また、/i/, /u/ のような狭母音は、無声子音の間で同化して無声化する場合がある。

/a/ : [aŋo]「顎」	[aci]「足」	[ase]「汗」	[awa]「粟」	[ka]「蚊」
/i/ : [inw]「犬」	[iga]「烏賊」	[ita]「板」	[kɨ]「木」	
/u/ : [ume]「梅」	[usaŋi]「兎」	[ude]「腕」	[kɯsa]「草」	
/e/ : [eda]「枝」	[ine]「稲」	[ke]「毛」		
/o/ : [ototo]「弟」	[omba]「おば」	[ome]「お前」	[oge]「桶」	[ono]「斧」

2.2 長母音

基礎語彙調査の範囲で確認できた長母音は [i:], [e:], [o:], [u:] である。左に挙げなかった [a:] も、文末助詞（終助詞）の母音として、文末に確認できるが、音声レベルの自由変異と考

¹ おおつき ともよ：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・特任研究員 (totsuki@tufs.ac.jp)

えられる。[i:] は形容詞「良い」に用いられる。[e:] は形容詞終止形・連体形（終止連体同形）の活用語尾に現れるが、長い [e:] でも短い [e] でも形容詞の意味は変わらず、母音の長短は弁別的ではない。[o:] は多く漢語に現れる。[u:] も概ね漢語に現れるが、一例のみ、漢語ではない例として、[ku:]「食う」がある。

むつ市方言における漢語について、母音の長短が意味の弁別に寄与するか否かについては、本稿の筆者は未確認である。ただ、上記のように、長母音 [e:], [a:] については発話レベルの自由変異による実現形とみなすことができるものが多い。母音音素一般について、長短の区別が弁別的であるとみられる積極的な根拠が見当たらなかったこともあり、本稿では、長母音音素を立てないこととする。

2. 3 二重母音

二重母音には、/ai/, /ae/, /ao/, /ei/, /oi/, /ou/, /ue/, /ui/, /oe/ がある。母音の融合は規則的には起こらない。開合の区別も見られなかった。

/ai/: [hai]「灰」 [kai]「貝」 [wai]「私」 [tarai]「盥（たらい）」
 /ae/: [namae]「名前」 [nae]「苗」
 /ao/: [ju:ŋao]「夕顔」
 /ei/: [meikko]「姪」
 /oi/: [oikko]「甥」 [nioi]「匂い」
 /ou/: [ko:mon] /koumoN/「肛門」 [rjoko:] /rjokou/「旅」 [jūino:] /juinou/「結納」
 /ue/: [kweru]「食べることができる」
 /ui/: [jūi]「相互扶助」[warui]「悪い」
 /oe/: ['koe]「声」（koが高い） [ko'e:]「疲れた」（e:が高い）

3 子音

子音音素は /p, b, m, s, z, t, c, d, n, r, k, g, ŋ, h, j, w/ の16種類である。さらに、特殊音素として2種類、/N/（撥音）と /Q/（促音）もある。

主に調音位置によって子音を分け、両唇音 /p, b, m/、歯茎音 /s, z, t, c, d, n, r/、軟口蓋音 /k, g, ŋ/、声門音 /h/、接近音 /j/（硬口蓋音）、/w/（両唇軟口蓋音）の順に記述する。

3. 1 両唇音

両唇音には /p/, /b/, /m/ がある。以下に用例を挙げる。

3. 1. 1 /p/

調査の範囲では母音 /i/ の直前に立つ例は見当たらなかった。

パ /pa/ : [oppa] 「尾」 [nappa] 「菜」 [usupa] 「包丁」
プ /pu/ : [tempura] 「天ぷら」
ペ /pe/ : [ippe] 「たくさん」 [sampesara] 「皿（の一種）」
ポ /po/ : [cippo] 「尾」

3. 1. 2 /b/

/b/ は、母音間において前鼻音（実現時間のごく短い入りわたり鼻音）を伴うことがある。現在の方言では、調査結果を見る限り、この前鼻音は義務的なものではなく、話者によって発音しないか、同じ話者でも発音しないこともある。前鼻音は失われつつある特徴であり、現状では、出現環境を規則的に記述し予測できる条件異音ではなく、自由変異といえる。

バ /ba/ : [o^mba] 「おば」 [baba] 「お祖母さん」 [bazikko] 「末っ子」
ビ /bi/ : [kü^mbi] 「首」 [to^mbiwo] 「飛魚」 [agübi] 「欠伸（あくび）」
ブ /bu/ : [tsibu] 「粒」 [abura] 「油」 [kobuçi] 「拳（こぶし）」
ベ /be/ : [bego] 「牛」 [benzo] 「便所」 [çomben] 「尿」
ボ /bo/ : [tsu^mbo] 「壺」 [nambo] 「幾ら」 [kabotça] 「南瓜（かぼちゃ）」

3. 1. 3 /m/

/m/ が入りわたり鼻音を伴う語例が1つ（[^mma] 「馬」）、確認された。

マ /ma/ : [maŋo] 「孫」 [mata] 「股」 [matsu] 「松」 [makko] ~ [^mma] 「馬」
ミ /mi/ : [mi] 「実」 [momi] 「粃」 [namida] 「涙」
ム /mu/ : [mugo] 「婿」 [müne] 「胸」 [tsü^mudzi] 「旋毛（つむじ）」
メ /me/ : [merasi] 「娘」 [tsüme] 「爪」 [mame] 「豆」
モ /mo/ : [kimo] 「肝」 [momi] 「粃」 [demono] 「おでき」

3. 2 歯茎音

歯茎音には、/s/, /z/, /t/, /c/, /d/, /n/, /r/ がある。

3. 2. 1 /s/

/s/ は母音 /a/, /u/, /e/, /o/ の前で無声歯茎摩擦音 [s]、/i/ の前では [s] または [ç]（口蓋化した /s/）である。むつ市方言では /i/ が中舌性の強い母音であるため、「シ」と「ス」の区別が曖昧になる。このため、/si/ の実現形として [si] ~ [çi] となる例がある。

サ /sa/ : [same]	「鮫」	[usaŋi]	「兎」	[kuṣa]	「草」
シ /si/ : [ci] … [ciɾaŋa]	「白髪」	[koçi]	「腰」	[hadageciŋodo]	「畑作業」
	[si] … [sippamusume]		「末っ子（女）、末娘」		
ス /su/ : [sūdzi]	「筋」	[ksūri]	「薬」	[anemusume]	「長女」
セ /se/ : [seki]	「咳」	[sempai]	「先輩」	[ase]	「汗」
ソ /so/ : [so:zi]	「掃除」	[kso]	「糞」	[misociru]	「味噌汁」

3. 2. 2 /z/

/z/ は異音として [z], [dz], [z̥], [dz̥], [ᵐz], [ᵐdz] をもつ。母音 /a/ /e/ /o/ の直前では [z] または [dz] で実現する。母音間において前鼻音を伴うことがあり、調査の限りでは [ᵐz] ~ [ᵐdz] を確認できた。

むつ市方言では母音 /i/ が中舌性の強い発音であるため、「ジ」と「ズ」の区別が曖昧になる。いわゆる四つ仮名「ジ、ヂ、ズ、ヅ」について、当方言では弁別的な区別ではない。当方言は、聴覚印象的に「ジ、ヂ、ズ、ヅ」の区別がなく、/zi/ ([zi] あるいは [z̥i]) に合流している一つ仮名方言であると言える。

ザ /za/ : [hiza]	「膝」	[aza]	「ほくろ」		
ジ /zi/ : [kuᵐdzira]	「鯨」	[hanadzi]	「鼻血」	[hiᵐzi]	「肘」
ズ /zu/ : [naᵐzūgi]	「額」	[kiᵐdzū]	「傷」	[kuwazuimo]	「クワズイモ」
ゼ /ze/ : [kadze]	「ウニ」	[ozen]	「膳」		
ゾ /zo/ : [dzo:ri]	「草履」	[kaᵐzogu]	「家族」		

3. 2. 3 /t/

音素 /t/ は母音 /a/, /e/, /o/ の直前に立つ。実現形に [ti] と [tu] はなかった。

タ /ta/ : [tane]	「種」	[kata]	「肩」	[kʰintama]	「睾丸」
テ /te/ : [te]	「手」	[tempura]	「天ぷら」		
ト /to/ : [to]	「戸」	[ototo]	「弟」	[imoto]	「妹」

3. 2. 4 /d/

/d/ も、先の /b/ と同様に、母音間において前鼻音を伴うことがある。音素 /d/ は母音 /a/, /e/, /o/ の直前に立つ。実現形に [di] は見られず、/di/ と /zi/ (⁽ⁿ⁾dzi ~ ⁽ⁿ⁾zi ~ ⁽ⁿ⁾zi ~ ⁽ⁿ⁾dzi) との区別がない。[du] も見られず、/du/ と /zu/ (⁽ⁿ⁾dzu ~ ⁽ⁿ⁾zu) との区別がない。

ダ /da/ : [namida]	「涙」		
デ /de/ : [demono]	「おでき」		

ド /do/ : [agudo] 「かかと」

3. 2. 5 /c/

/c/ は母音 /i/, /u/ と、接近音 /j/ の直前に立つ。母音 /i/ と接近音 /j/ が後続する場合は [tɕ] で実現し、/u/ が後続する場合は [ts] で実現する。ただし、母音 /i/ が中舌性の強い発音であるため、「チ」と「ツ」の区別が曖昧な場合がある。

/c/ に /o/ が後続して [tɕ] で実現する語例も1つ見られた。

/c/ : [ts] … [tsura] 「面（かお）」 [matsw] 「松」 [çitotsū] 「一つ」
[tɕ] … [tɕi] 「血」 [kutɕi] 「口」 [kutɕibiru] 「唇」 [tɕitɕi] 「乳」 [hettɕo] 「へそ」

3. 2. 6 /n/

/n/ は、母音 /i/ が後続すると口蓋化して [ɲ] になる場合がある。それ以外の母音の前では [n] で実現する。

ナ /na/ : [henaka] 「背中」	[nawa] 「縄」	[nanatsū] 「七つ」
ニ /ni/ : [piku] 「肉」	[ɲira] 「にら」	[ani] 「長男」
ヌ /nu/ : [nuka] 「糠」	[inw] 「犬」	
ネ /ne/ : [nego] 「猫」	[hone] 「骨」	
ノ /no/ : [nogo] 「鋸（のこ）」	[kudamono] 「果物」	

3. 2. 7 /r/

/r/ は、はじき音 [ɾ] で発音される。

ラ /ra/ : [sara] 「皿」	[meraci] 「娘」	
リ /ri/ : [toçori] 「年寄り」	[kusuri] 「薬」	
ル /ru/ : [kuteibiru] 「唇」	[irwaga] 「いるか」	
レ /re/ : [jo ^h dare] 「涎」	[sippakire] 「未っ子」	
ロ /ro/ : [kuroboçi] 「踝（くるぶし）」	[ɸuguro] 「袋」	[rokuwini] 「六人」

3. 3 軟口蓋音

軟口蓋音には /k/, /g/, /ŋ/ がある。

3. 3. 1 /k/

/k/ は母音間で [k] も [g] も現れる。音素 /k/ は母音間では [g] で実現すると記述されることが多いが、調査では、こうした規則的な変化が見られない場合が少なからずあった。

カ /ka/ : [kadze] 「ユニ」	[nuka] 「糠」		
キ /ki/ : [haŋuki] 「歯茎」	[kimo] 「肝」	[iki] 「息」	[kʰi] 「木」
ク /ku/ : [piku] 「肉」	[cokuzi] 「食事」	[kuŋi] 「釘」	[kusari] 「鎖」
ケ /ke/ : [ke] 「毛」	[kekkon] 「結婚」	[keŋka] 「喧嘩」	
コ /ko/ : [koci] 「腰」	[ko ^m bɯ] 「たんこぶ」	[kinoko] 「茸」	

3. 3. 2 /g/

/g/ は母音間ではなく語頭に現れる例も見られる。音素 /g/ は母音間では [ŋ] で実現すると記述されることが多いが、調査では、こうした規則的な変化が見られない場合もあった。

ガ /ga/ : [gani] 「蟹」
ギ /gi/ : [ojaɣumagi] 「親戚」
グ /gu/ : [ɕagusi] 「ひしゃく」
ゲ /ge/ : [baŋgemesi] 「夕食」
ゴ /go/ : [goma] 「胡麻」

3. 3. 3 /ŋ/

語頭に /ŋ/ が立つ例は見当たらなかった。

カ° /ŋa/ : [ɕiraŋa] 「白髪」	[keŋa] 「怪我」	[jɯ:ŋao] 「夕顔」
キ° /ŋi/ : [ɯnaŋi] 「鰻」	[kuŋi] 「釘」	[ɸɯkuraŋaŋi] 「ふくらはぎ」
ク° /ŋu/ : [haŋuki] 「歯茎」		
ケ° /ŋe/ : [kamiŋe] 「髪の毛」	[majuŋe] 「眉毛」	[toŋe] 「棘」
コ° /ŋo/ : [aŋo] 「顎」	[idziŋo] 「苳」	[hadageciŋodo] 「畑作業」

3. 3. 4 軟口蓋音が摩擦的噪音を伴う場合

大西（1952: 23）で記述されているように、今回の調査でも、/k/ の直後の母音が /i/ の場合、/i/ へのわたりに摩擦的噪音が生じ、[kʰi] や [kʷi] と表記されるような音声で実現する。

/g/ の直後の母音が /i/ の場合も、/i/ へのわたりに摩擦的噪音が生じる。この場合の摩擦的噪音は有声性において /g/ と同じ有声音となり、[gʰi] のように表される音声で実現する。

/ŋ/ の直後に /i/ が立つ場合に摩擦的噪音が生じる例は見当たらなかった。

3. 4 声門音

声門音には /h/ がある。音素 /h/ は、母音 /a/, /e/, /o/ の直前では声門音 [h] で発音され、母音 /i/ の直前では口蓋化して [ç] になることがある。母音 /u/ の直前では両唇音の

[ɸ] で実現する。

ハ /ha/ :	[hana] 「花」	[hasira] 「柱」	
ヒ /hi/ :	[hiŋe] 「ひげ」	[hiza] 「膝」	[ɕitori] 「一人」
フ /hu/ :	[ɸuŋke] 「ふけ」	[ɸuɸtari] 「二人」	[ɸuɸtatsü] 「二つ」
ヘ /he/ :	[he] 「屁」	[henaga] 「背中」	[hettco] 「へそ」
ホ /ho/ :	[ho] 「穂」	[hone] 「骨」	[ho ⁿ zo] 「包丁」

3. 5 接近音

接近音には /j/, /w/ がある。

3. 5. 1 /j/

先に /j/ の例を挙げる。/j/ の直後に /i/, /e/ が現れる例はなかった。

ヤ /ja/ :	[omoja] 「母屋」
ユ /ju/ :	[jübi] 「指」
ヨ /jo/ :	[jomoni] 「蓬」

また、/j/ は、子音に後続して、口蓋化した子音を作る。基礎語彙とその用例の調査の範囲では、次のような口蓋化子音が見られた。

シャ /sja/ :	[ɕagusi] 「ひしゃく」	[camo ⁿ zi] 「しゃもじ」
シヨ /sjo/ :	[toɕori] 「年寄り」	[ɕomben] 「尿」
ジャ /zja/ :	[dza] ~ [za] 「よ（文末詞、終助詞）」	
ジュ /zju/ :	[dzü:nin] 「十人」	
ジョ /zjo/ :	[tenzo:] 「天井」	[benzo] 「便所」 [tco:dzo] 「長女」
チャ /cja/ :	[tɕawan] 「茶碗」	[kabotɕa] 「南瓜（かぼちゃ）」
チヨ /cjo/ :	[tco:dzo] 「長女」	[hettco] 「へそ」 [ɕintco:] 「背丈」
ビャ /bja/ :	[b ^{ja}] 「～（し）ようよ」	
ビヨ /bjo/ :	[b ^{jo} :ki] 「病気」	
キャ /kja/ :	[kk ^{ja}] 「よ（ね）：文末詞、～（し）たら：副助詞」	
キュ /kju/ :	[k ^{ju} :sü] 「急須」	[k ^{ju} :] 「灸」
キヨ /kjo/ :	[k ^{jo} ⁿ dai] 「兄弟」	
リヨ /rjo/ :	[r ^{jo} ko:] 「旅」	

3. 5. 2 /w/

次に /w/ について、/w/ は母音 /a/ の直前に立つ。

ワ /wa/ : [wa] 「私」 [wara] 「藁」 [awa] 「粟」

/w/ が子音に後続することで子音が唇音化して [k^w] や [g^w] になるような、いわゆる合拗音「クワ」「グワ」のような音は、調査の範囲では見られなかった。

3. 6 特殊音素

単体で母音の持続時間と相当する持続時間をもちうる子音音素として、撥音 /N/ (ん) と促音 /Q/ (重子音) がある。

3. 6. 1 撥音

撥音 /N/ は直後の子音と同一の調音位置で発音される鼻音である。/N/ は、直後の子音が両唇音のとき [m] で、直後の子音が歯茎音のときは [n] になる。同様に、直後の子音が軟口蓋音のときは [ŋ] で、語末では [N] で実現する。

ン m… [nambo] 「幾ら」 [tempura] 「天ぷら」 [nammo] 「まったく」
 n… [ondzi] 「次男」
 ŋ… [keŋka] 「喧嘩」 [baŋgemesi] 「夕食」
 N… [goniN] 「五人」

3. 6. 2 促音

促音 /Q/ (重子音) は、同じ子音を重ねた結果詰まったような音で、基礎語彙調査の範囲では、[pp], [tt], [cc], [kk] が現れた。

ッ pp… [happa] 「葉」 [nappa] 「菜っ葉」 [oppa] 「尾」
 tt… [jatto] 「早く」
 cc… [hettco] 「臍 (へそ)」 [kettsu] 「尻」
 kk… [ekko] 「柄」 [kekkon] 「結婚」

4 音素目録

当方言の音素一覧を次に示す。

(1) 母音音素

母音音素は短母音5つ /a, i, u, e, o/ である。

表 1 短母音音素

	Front	Back
High	i	u
Mid	e	o
Low	a	

(2) 子音音素

子音音素は /p, b, m, s, z, t, c, d, n, r, k, g, ŋ, h, j, w/ の16種類である。

表 2 子音音素

	両唇	歯茎・硬口蓋	軟口蓋	声門
破裂音 無声	p	t	k	
有聲	b	d	g	
	[b~ ^m b]	[d~ ⁿ d]		
鼻音	m		ŋ	
摩擦音 無声		s		h
		[s~ ^ç]		[h~ ^ç ~ ^ϕ]
有聲		z		
		[z~dz~z~dz ~ ⁿ z~ ⁿ dz]		
破擦音		c		
		[ts~t ^ç]		
はじき音		r		
		[r]		
接近音	w	j		

(3) 特殊音素

特殊音素は /N/, /Q/ の2種類である。

撥音 N [m, n, ŋ, ɴ]

促音 Q [pp, tt, cc, kk]

5 音節

音節の構造は、(O)(G)N(Co) である。各スロットについて、O は onset：頭子音、G は glide：わたり音、N は nucleus：音節核、Co は coda：末子音を表し、括弧に含まれる要素 O, G,

Coは有っても無くてもよい。

音節に必須の要素はNスロットで、これに O や Co などが加わり、1つの音節を作る。Gスロットには、/j/ が立つ。

表 3 音節構造

Onset	Glide	Nucleus	Coda
p, b, m, s, z, t, c, d, n, r, k, g, ŋ, h	j	a, i, u, e, o	N, Q

参考文献

大西久枝（1952）「青森県下北方言における音韻について」『文学論叢2』18-29.